



マレーシア

23 テノンパンギ水力発電所 リハビリテーション事業

サバ州において、洪水被害によって損傷を被ったテノンパンギ水力発電所の施設を修復することにより、安定的な電力供給を図り、もって地域の経済成長に寄与する。

承諾額/実行額	5億4,300万円/2億9,900万円
借款契約調印	1992年5月
借款契約条件	金利3.0%、返済25年(うち据置7年)、一般アンタイト
貸付完了	1999年9月



外部評価者 岡田卓也 (株)コーエイ総合研究所
現地調査 2003年8月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りに塵芥制御システム(可動式プロテクションラック等)の整備などがなされた。期間については、コンサルティング・サービスにおける外国人専門家の活用に関して、マレーシア政府の方針確定に時間を要し、計画を大幅に上回ったが、事業費は競争入札等による効率的な受注により計画を下回った。事業実施前のテノンパンギ水力発電所(最大出力66MW)の年間発電量は、洪水被害による出力調整により平均347GWh(1988~92年)であったが、事業実施後の2000年には481GWhとなり、計画値(475GWh:約16万人分の年間電力消費量)を達成している。2001、02年は、タービンの定期点検により発電量は低下(01年:412GWh)したが、03年以降は安定的かつ高水準の電力供給が見込まれる。99年~01年にはサバ州のGRDP(域内総

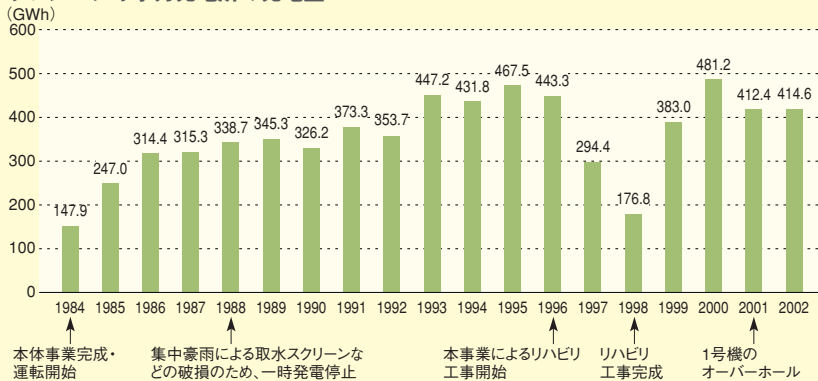
生産)の伸びが平均6.2%と、全国平均の4.2%を上回っており、テノンパンギ水力発電所は、州の発電量の約15%を担う基幹発電所として、安定した電力供給を通じて州の成長、住民の生活(サバ州の人口約240万人、長野県約221万人)を下支えている。実施機関であるサバ電力会社(SESB)の技術、体制、財務面については問題はないが、将来の持続的な運転のため、一部の周辺機材の更新が望まれる。

第三者意見

本事業による発電所の機能回復は、安定的な電力供給を可能としたことで、地域の経済発展と人々の生活水準向上に貢献している。

有識者 Mr. Tan Sri Dato' Muhamed Khatib Abdul Hamid
マラヤ大学卒業。元駐日大使。現在マラヤ大学理事長、国立心臓センター院長。専門は外交。

テノンパンギ水力発電所の発電量



出所:SESB



テノンパンギ水力発電所は州の発電量の約15%を担う基幹発電所として、州の成長、住民の生活(サバ州:約240万人)を下支えている。